

## 筑波大学の見学が開催されました

研究推進部 研究推進室 後藤真宏

9月4日、筑波大学生物資源学類2年生が生物資源科学実習の一環として当部門を見学しました。見学会は参加人数を考慮して農業環境研究部門と交互に見学する2班体制で開催しました。2班合わせて、計30名（引率含む）が参加しました。

緊急防災棟会議室にて、藤原所長より来所の歓迎と、「農村工学研究部門の職場紹介と採用情報」と題して、農研機構と農工研の紹介、そして農村工学分野の研究者への道筋について説明がありました。

続いて、水利工学研究領域 桐領域長から、「沿岸減災研究の取り組みと浸水実験施設の概要」のテーマで、シミュレーションや模型実験を活用した沿岸減災研究の内容と必要性などの説明がありました。その後、沿岸域防災実験棟に移動して、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生直後に農工研職員が調査している写真、そして実験装置や干拓地模型の説明がありました。

再び、緊急防災棟会議室にて、農地基盤情報研究領域 農地整備グループ 新村研究員から、研究者の進路を選択したご自身の経験談と、農研機構の動画サイト（NAROchannel）にアップされている「3匹のこぶたで学ぶ農業用水」を通じて水田の水管理作業や新村研究員が現在農工研で取り組んでいる研究について説明がありました。その後、試験圃場に移動して、「圃場水管理システム」の実演、説明がありました。

参加学生からは、「シミュレーションだけでなく、模型実験はなぜ行われるのか」、「遠隔制御できる距離は」など様々な質問があり、研究者と意見交換が行われました。専攻する分野が決まっていない学生にとって、貴重な機会になったと思います。



挨拶をする藤原所長



沿岸域防災実験棟で解説する桐領域長



圃場水管理システムの説明をする新村研究員